

ときを越え
受け継がれるもの

虫送り

Ⅱ 胆沢区若柳字市野々 Ⅱ

虫送りは、害虫の駆逐と豊作を祈願する農耕行事で、戦前まで全国各地で見られたが、農薬の普及などによりその多くは途絶え、現在、市内では市野々集落でのみ続けられている。

田植えが終わった6月初旬の夕刻、集落の住民約50人が焼石クアパークひめかゆ近くの山神碑を参拝。虫を集めた、実を虫に見立てたというクワの葉とのぼりを手に虫送りの言葉を唱えながら集落内を練り歩き、クワの葉を胆沢川に流して虫を集落の外に送り出す。かつては日が暮れてから子どもだけで行われていたが、少子高齢化が進む中で「集落の伝統行事を途絶えさせてはならない」と、子どもから大人まで地域一丸となって取り組んでいる。

少しずつ形を変えながら受け継がれてきた市野々集落の虫送りは、豊作への祈りとともに地域住民の心をつなぎ、古里への愛情を育んでいく。



1



2



3



4

1 ぼら貝を合図に「送る送る送るやー、何の虫送るやー、稲の虫送るやー」と唱えながら歩く 2 出発点は山神碑前。ルートを変えながらも虫送りは続けられている 3 練り歩く声を聞き付けた集落の人々は、門口に立ち菓子を差し入れる 4 昔は団子を刺した桃の木の枝が門口に置かれ、子どもたちはそれを食べるのを楽しみに参加していた



広告